

# あなたもセカンドレベルで 学んでみませんか

## セカンドの講義を受けて

私は、施設に勤務しており、私にとってセカンドレベルは少し敷居の高いものでした。しかし、充実した講義内容と、素敵な受講生仲間にも恵まれ、実り多い研修になりました。セカンドレベルの講師の中には、なかなか講義を聴くことができない先生の講義もあり、貴重な経験となりました。また、講義中ずっとうなずいて聴いたり、楽しくて笑って聴いたり、やり取りの中で考えさせられたりと、どれも中身の濃い内容の講義ばかりでした。セカンドレベルの講義を通して、多くのことを吸収させていただきました。この貴重な機会を糧に、「質の高い看護」を目指して、今後は自分を進化させて看護管理に向き合っていきたいと思えます。 (医療福祉施設 看護部長 Aさん)



## 仲間とのつながり

自施設での課題は、実は他施設でも同じように共通していることが多くどのように対策しているか臨床での声を聴くことで情報交換でき共有できたことはとても貴重な学びでした。

勤務をしながらの研修は、楽ではありませんでしたが、苦しい中だからこそ仲間との語らいはとても心強いものでした。

講義前の仲間のスピーチでは、毎回楽しく趣味、電化製品、推し、家族のことなど幅広い話題ばかりで仕事だけでなく人生の過ごし方など学ぶことの多いとても有意義な時間でした。

医療機能、発達段階の異なる対象者を看護していますが、共通することは「人」を好きな人達ばかりでやはり看護師であり自分自身も看護師で良かったなあと改めて感じる時間でした。

(回復期病棟 副看護部長 Cさん)

## 看護管理実践計画書の取組み

今回、セカンドレベル研修を受講したことで多くの学びと地域の管理者とネットワークを作ることができました。

看護管理実践計画書作成は、全ての研修の集大成です。実践計画書作成において、学んだ知識をフル活用し、組織分析を行い、あるべき姿とのギャップを確認し、取り組む課題を明確にしました。また、現在の医療を取り巻く社会の変化、大分県の現状を知ることで自施設の役割が明確になりました。組織の変革には、根拠となるデータマネジメント、個人を動かす動機づけが重要であること、管理者が状況に応じたリーダーシップを発揮し取り組む必要があることを学びました。今後は、同志である 24 名の仲間との絆を大切に、看護管理者として成長していきたいと思えます。

(急性期病院手術部 看護師長 Bさん)

## レポート課題の取組み

レポート課題は、講義の振り返りだけでなく、慌ただしい日々の仕事や自身の考えを内省する良い機会となります。研修生との議論や文献検索によって、知見を深めることもできました。

考えを論理的に文章化する作業が提出日の朝まで続くこともたびたびでした。期日に間に合うのかというスリル、推敲を重ね、提出した時の達成感、解放感は仕事では味わえません。この試練を乗り越えた時、きっとあなたも自信がもてるようになりますよ。

(急性期病院 外科病棟 看護師長 Dさん)

